

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

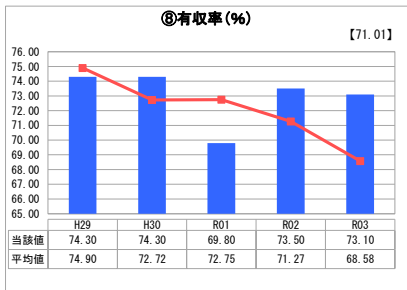
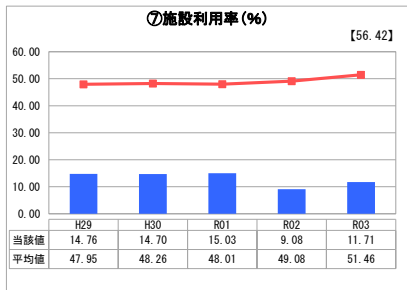
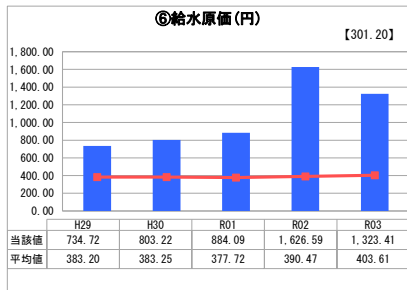
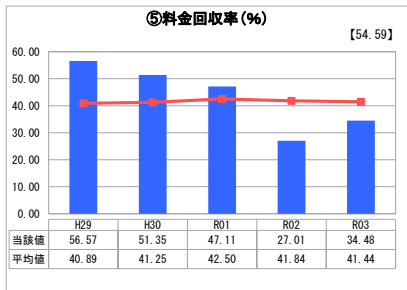
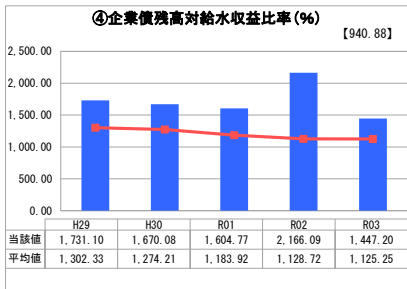
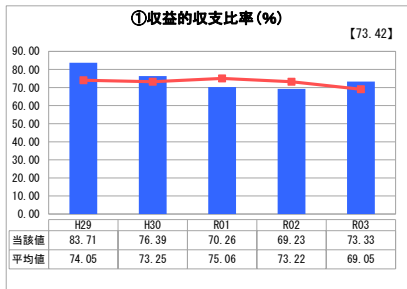
長野県 山形村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	該当数値なし	3.98	5,500	

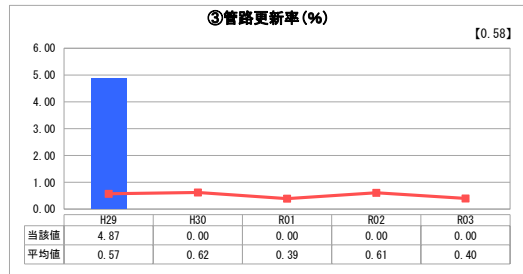
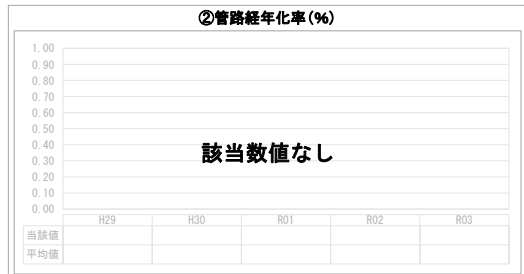
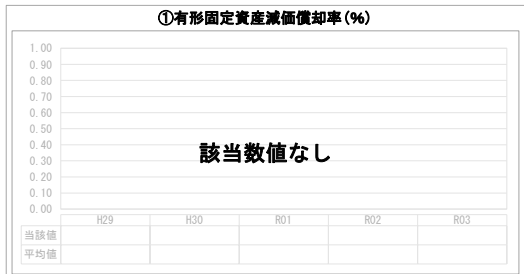
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,587	24.98	343.76
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
340	0.46	739.13

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は、これまで休館していた宿泊施設が部分的に営業を再開したため、前年度に比べ若干上昇している。④企業債残高対給水収益比率は、前年度に比べ給水収益が増えたため減少している。⑤料金回収率、⑦施設利用率は水道水の使用量が増えたため上昇している。⑧有収率は、73%から74%台で推移しているが、水道管を布設してからの経過年数を考慮すると、漏水の影響は無視できないのではないと思われる。

### 2. 老朽化の状況について

水道関連施設の老朽化は進行の一途だが、収入源が100件ほどの別荘及び1件の宿泊施設からの水道料金と一般会計からの繰り入れであるため、なかなか更新事業に取り組めない状況である。今後も、今ある施設の修繕と補強により長寿命化を図ってきたい。

### 全体総括

令和3年度はこれまで新型コロナウイルス感染症の流行で休館していた宿泊施設が部分的に営業を再開したため、水道水の使用量が回復しつつある。令和5年度から簡易水道事業が法適用となることから、さらなる経営分析を行い、今後の運営方法を模索してきたい。